

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業-CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 副委員長 西川 宏
スマートプロセス研究センター スマートグリーンプロセス学分野 准教授

2014年12月14日～27日の期間で本年度最後(7ヵ国目)のCIS(カップリングインターンシップ)をタイ・バンコクで実施しました。大阪大学外国部学部タイ語専攻から2名、大学院工学研究科から2名、タイのカセサート大学工学部2名、日本語専攻から2名の合計8名の学生が参加しました。現地では、最初の2日間に8名揃っての事前研修が行われ、企業活動の概論やコミュニケーション手法の基礎に関する講義から、溶接の基礎知識に関する講義まで企業実習をより効果的に行う為の講義が行われました。その後、1日の文化交流を挟み、12月18日から5日間の企業実習に臨みました。実習先のOTC DAIHEN Asia Co., Ltdでは、最初に具体的な現地企業の活動方針、組織、業務内容についての説明を受け、その後、実際のものづくりの現場で、機械加工や射出成型、MAG溶接、ロボットのティーチングングに至るまで様々な作業体験・実習が行われ、実践的にものづくり技術の基礎を学びました。その他、関連企業

の工場見学も含め、東南アジアにおける日系企業のものづくり現場を目の当たりにしました。また今回は「タイプラスワン」という課題の下、様々な情報収集をグループ毎に行いながら、複数のインタビューを行い、自分達なりの提案を探りました。最終日の26日には、カセサート大学で最終報告会を開催し、学生同士議論を重ねた結果の提案についてプレゼンテーションをグループ毎に行いました。報告会には、OTC DAIHEN Asiaの山口社長、カセサート大学のPeerayuth Charnsethigul工学部長、大阪大学の中田教授ら計30名の参加があり、学生からの提案内容に関して活発な議論も行われ、盛況裏に終了しました。学生は、今回のCISを通して、異国の地での日系企業のものづくりを目の当たりにするとともに、グローバルな環境で働くことの難しさ、様々な状況でのコミュニケーション能力の重要性などを学び、価値ある活動となりました。

